

感想や情報をお寄せ下さい。〒231-8445神奈川新聞報道部「支え合い」担当。ファクス045(227)0128、電子メール sasaeai@kanagawa-np.co.jp

# スポーツで不安解消

## 地域の支援で認知症対策



鎌倉市今泉台の公園で、高齢の男性たちがサッカーに興じている。ぎこちない動きの人もいるが、介護スタッフに見守られながらボールを止め、蹴り返す。男性の1人は「パスの出来はまだまだ」と話したが、満足げな表情だ。認知症対応型通所介護施設「ケアサロンさくら」管理者の稲田秀樹さん(55)は「一体は元氣、心は不安という認知症の人は、体を動かし機能訓練することが大事。発散して充実感を得ることで安心が得られる」と語る。

者の6割以上が男性という珍しい施設だ。公園ではサッカーや体操などのほか、遊びに来ていた子どもたちと一緒に遊んだりもする。また、職員が付き添って商店街で買い物をし、昼食づくりを手伝ってもらったこと。「認知症の人の不安、周辺症状の背景には、現実世界とのつながりにくさがある。地域に居場所をつくり役割を

持つてもらうことで安心してもらえば、周辺症状や認知症の進行を抑えられる」と稲田さん。さくらの取り組みは2010年にさかのぼる。市内の介護施設の職員として、閉じ込めない認知症ケアを模索していた稲田さんに、今泉台のボランティア団体「今泉すけ」と会「の伊藤 二郎代表が「商店街の空き店舗でデイサービスをやってみては」と提案し

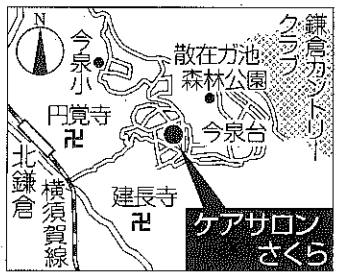
た。「住民の認知症への理解が不十分と感じていた。施設を商店街の中に置くことで地域に情報を発信できると考えた」と伊藤さん。店舗の改修、駐車スペースの確保、備品の整備などで、すけと会と地域住民が協力。翌11年、青果店や理容院など十数店が並ぶ北鎌倉台商店街の一角にさくらはオープンした。商店街は認知症サポート一ター養成講座も開催、店主や住民がサポーターになり、応援団になってくれた。青果店の店主は「以前は周辺症状がひどかったのに、さくらさんに通って落ち着いた人も多い」と語る。地域とのつながりによって生み出された成果。さくらでは、「北鎌倉台フェスタ」など地域のさまざまな活動に協力している。4月からは、すけと会と共催で月1回の無料認知症講座も行っている。「誰もが住みよいまちになるために、人と地域がつながる手伝いをしていきたい」。稲田さんが熱く語った。

## ケアサロンさくら

(鎌倉市今泉台)



サッカーを楽しむことで足腰がしっかりし安心感も増したケアサロンさくらの利用者(左)



(熊谷 和夫)

◆ケアサロンさくら 認知症対応型通所介護。株式会社「さくらコミュニティケアサービス」(稲田秀樹社長)。鎌倉市今泉台4-11-2。稲田秀樹管理者。定員8人。

## 会県支部

### 強化

認知症コールセンターの運営、家族支援プログラムなど多彩な事業で、認知症と向き合う人々を支援

### 地域から

本人と家族のつどい(年6回)、「ターミナルから看取(みと)った介護家族のつどい」(年3回)、各種講演会などを行っている。本人たちだけで希望や思いを語り合う若年性認知症本人の会は、2011年11月(木)の開催

4回開催する。また、医師による認知症講座、地域包括支援センター職員等による介護保険解説、介護経験者の体験談などからなる「家族支援プログラム」(年6回)も開催する。

会県支部 認知症対策部